

普通期米 栽培管理情報

1. 生育状況

本年の普通期米については、6月11日に梅雨入り（平年6月5日）し、7月30日（平年7月19日）に梅雨明けしましたが、梅雨入り後は断続的な降雨があり田植えは順調に推移し、田植え後の生育は概ね良好となっていますが、降雨により灌水した圃場や落水が出来ていない圃場では、ジャンボタニシによる食害が散見されます。梅雨明け後の晴天の影響から、現在の生育は茎数も確保でき、生育速度は平年より2～3日遅れとなっています。

今後は、出穂時期～成熟期を迎えるため、適切な管理を徹底しましょう。

病害虫については、いもち病は夢つくし、元気つくしを中心に発生が散見されます。

ウンカについては、ウンカ警報を8月5日に配布しておりますが、坪枯れが懸念されます。必ず適期防除を行いましょう。

2. 水管理

出穂7日前（オオバラの時期）から出穂7日後（穂揃い）までは水を切らさないよう管理を行う。出穂後は、間断灌水を実施し、水に余裕のある場合は、高温障害防止の為、夜間に水の掛け流しを行い、地温を下げ品質向上に努める。間断灌水の際、乾かしすぎ（白乾状態）に注意し常に土が湿っている状態を維持すること。また台風の接近等強風が予想される場合は、水分の蒸散を防ぐため、出来る限り深水を行う。充実向上の為、収穫一週間前の走り水を必ず行いましょう！

3. 病害虫

ウンカ	<p>最も飛来が多い7/8～14 飛来のトビイロウンカ（秋ウンカ）が増殖しています。今年、<u>カメムシと合わせて</u>（9/15～9/20）に同時防除を行う！！</p> <p style="margin-left: 20px;">↳ キラップ粉剤 4kg/10a（収穫14日前まで） 又は キラップフロアブル 1,000～2,000倍（収穫14日前まで）</p> <p>※飼料米（ツクシホマレ）は、一般米と同じように必ず防除を行ってください。 ※WCSは、必ず契約畜産農家に確認してから防除を行ってください。 WCSは、<u>スタークル粉剤</u>4kg/反（収穫7日前まで）のみ散布可能</p>
いもち病	<p>現在、下葉に病斑が在る場合は、発生が懸念されるので注意が必要。</p> <p>使用薬剤 ノンプラス粉剤 DL 3～4kg/10a または、ノンプラスフロアブル 1,000倍</p>
紋枯病	<p>昨年発生した圃場は発生が予想される。また、<u>高温で発生を助長するため注意！！</u></p> <p>使用薬剤 バリダシン液剤 1,000倍</p>
カメムシ	<p>本年は平年より多く発生しており、必ずウンカに合わせ防除を徹底しましょう。</p> <p>①<u>稲の出穂前に畦畔の草刈り</u>を行う。<u>その際、雑草の穂が出穂する前に草刈り</u>を行うことが重要。 ②<u>9/15～9/20</u>にウンカと合わせて キラップ粉剤3～4kg/反 または キラップフロアブル1000倍 100L/反</p>

※農薬散布の際は、周辺作物等に飛散がないよう十分注意してください！！

※粒剤体系を使用する場合は水を溜め、防除適期の3日程前に施用して下さい。